

# 7月の肥培管理

## ■ 水稻の体作りから穂作りへ ■

### 1. 水稻の生育ステージ

稲の生育期間の中で、6月は稲の体作り(栄養成長)の仕上げの月、7月は稲の穂作り(生殖成長)が始まる月です。収量、品質を左右する重要な時期となり農家の腕の見せ所の時期でもあります。よく圃場を観察し、きめ細やかで適切な水管理と肥培管理を心掛けましょう。

### 2. 中干し □ 期間:目標茎数の確保期～幼穂形成期直前 □

「幼穂形成期の予想 ハナエチゼン 6/26 頃 コシヒカリ 7/13 頃 日本晴 7/15 頃」

中干しの目的は、無効分げつの発生を抑制し過剰分げつとならないようにすることや、圃場を酸化的条件にすることで根腐れを抑制し、株直下方向の根の伸長を促進する。さらに、圃場の土を固めることで登熟後半まで通水しても収穫作業が円滑に行えるようにすることです。

中干しの程度は、湿田では大きなひびが入るまで干すことが基本となるが、梅雨時期と重なるので降雨の程度や土壌の状態に合わせた入排水が必要となります。



#### □ 移植コシの場合 □

1株の茎数は見た目よりも多くなっています。

左の株の状態で 23本/株になります。(50株植/坪)



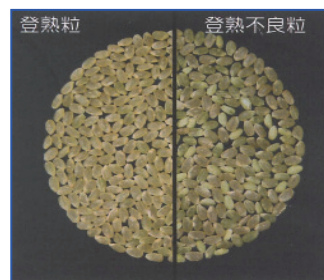
#### □ 直播コシの場合 □

条播の場合、6月中旬以降急激に茎数が増えてきます。左の分げつ状態で 100本/m程度。

### 3. 食味向上のために □ けい酸質資材の施用で登熟向上 □

稲のけい酸吸収量は最高分げつ期以降、徐々に多くなっていきます。けい酸や加里は倒伏軽減、病害虫の抵抗性向上に合わせ、高温による品質低下や低温による登熟低下を軽減する効果があります。

資材名(いずれか)	散布量	散布時期
けい酸加里 (けい酸 34% 加里 20%)	20kg/10a	コシヒカリの場合 6月下旬
カリ投げくん (けい酸 35% 加里 33%)	4 kg/10a 200g 小袋×20個	



### 4. 穂肥 □ 幼穂長と生育を確認して適切な穂肥を □

穂肥は適正な着粒数と登熟向上に向け、必ず幼穂長と圃場ごとの生育(草丈・葉色・茎数)を確認し適期に適量を施すことが極めて大切です。

#### ① 基肥一発肥料の場合 □ 間断通水で肥効の発現を □

通常は穂肥の必要はありませんが、一発肥料でも前年が転作などの理由で基肥を減らしている場合は、穂肥窒素量が不足するので、不足分に換算した穂肥を施すようにしてください。又、高温多照年に多い傾向ですが、2回目の穂肥時期となっても葉色が淡い

ままで登熟不良を招くと予測される場合、こだわり追肥 570 を7kg/10<sup>ア</sup>程度、2回目の穂肥に相当する時期に追肥しましょう。特に日本晴など耐倒伏性品種は葉色等を見ながら積極的に施用しましょう。

## ② 分施(基肥、穂肥別施用)の場合

施用時期が早いと、1つの穂につく粒数が増加しますが、稈が伸び、止葉が長く、倒伏しやすくなり、結果として登熟が悪くなります。逆に、遅いと穂につく粒数に不足をきたし、玄米中の蛋白含有量が高くなり、食味を低下させる原因となりますので、1回目の穂肥は時期を的確に施しましょう。近年温暖化している気候の中、8月上旬の出穂期に葉色が非常に淡くなっている(夏場の稲体の活力が低下している)ことも胴割れ米の発生要因と考えられるため、暑い夏場を乗り切るために2回目の穂肥は確実に実施しましょう。



### コシヒカリの稲の姿(幼穂形成期時) 穂肥を決めるポイント

生育	草丈	葉色	茎数
適正	82 cm未満	3.5	24本/株程度
やや過剰	82 cm以上	やや濃い	25~27本/株
過剰	82 cm以上	濃い	28本/株以上



### 穂肥時期・量の目安(分肥の場合) こだわり追肥 570 施用量

品種	1回目		2回目	
	時期	10 <sup>ア</sup> 施用量	時期	10 <sup>ア</sup> 施用量
ハナエチゼン	幼穂長 1~2 mm (6月26日頃)	適正 15 kg	1回目の10日後 (7月6日頃)	適正 15 kg
		やや過剰 12 kg		やや過剰 12 kg
<u>コシヒカリ</u>	<u>幼穂長 10 mm</u> (7月18日頃)	適正 12~15 kg	<u>1回目の7日後</u> (7月25日頃)	適正 12~15 kg
		やや過剰 10 kg		やや過剰 10 kg
		過剰 -		過剰 10 kg
日本晴	幼穂長 1~2 mm (7月15日頃)	適正 15 kg	1回目の10日後 (7月25日頃)	適正 15 kg
		やや過剰 12 kg		やや過剰 12 kg



※コシヒカリの施用量は上の「コシヒカリの稲の姿」を参考にして下さい。

## 5. 病害防除

いもち・紋枯病対策として、移植については苗箱施薬としてルーチンエキスパート箱粒剤が使用されています。移植でも箱施薬をしていない場合や、直播の場合はオリゼメート粒剤を早急に散布し、昨年紋枯れ病の発生が多かった圃場では、リンバー粒剤を7月上旬から中旬に散布してください。(リンバー粒剤は特別栽培の場合は直播栽培でのみ使用でき、移植栽培では使用できません。)

